

令和元年度第6回立川市第3次観光振興計画協議会 要旨

会議名称	立川市第3次観光振興計画協議会
開催日時	令和2年1月16日（木曜日） 午後7時00分～午後9時00分
開催場所	立川市役所 209 会議室
次第	1. 開会 2. 立川市第3次観光振興計画（素案）について
配布資料	1. 立川市第3次観光振興計画（素案） 2. 第5回議事録 3. 嶋津委員からの資料
出席者	[構成員] 会長 岩崎太郎、副会長 岩下光明、小野和久、都築諒、穂積計人、及川卓也、木嶋雅史、鈴木義嗣、前田千歳、矢ノ口美穂 [事務局] 奥野武司（産業観光課長）、津崎政人（観光振興係長）、中澤栞（観光振興係）、岸田知裕（観光振興係）
欠席者	中田龍哉、嶋津隆文
話題提供者	なし
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0人
会議結果及び要旨	1. 次回第7回は令和2年1月28日（火）とする。 2. 今回は、今回の協議会で挙げた意見を元に修正した素案を作成し、それを踏まえて協議する。
担当	産業文化スポーツ部産業観光課観光振興係 電話 042-529-8562

1. 開会

2. 立川市第3次観光振興計画（素案）について

（会長）

前回の議論を振り返る。今日は素案の内容を詰めることになる。第2章、財政悪化が市民生活に影響するかどうか。第3章はキャッチコピー。第4章は来街者の動向で韓国からの来訪者が減っているのでは、などの意見。第5章は推計値、4,290万人は動かせないということで、これで行くこと。第6節について、立川市の課題と振興計画の戦略がいまいちリンクしていないのでは、という話が出たので、中を直したところ。第6章はこれからまた意見をもらいたい。

早速内容について、前回みなさまからの意見をもとに直してもらった。私も個別で意見を出したのも、直してもらった。さらに、庁内検討委員会があって各部署からの意見を元にした修正もあった。その点の説明を。

（事務局）

資料に基づき説明。

（会長）

前半の部分、観光振興の必要性についてはみなさまから意見が色々出ていたが、このような変更について意見はあるか。

私の方から、庁内検討委員会で、3章のキャッチコピーを含めた部分については何か意見はあったか。長期総合計画で何か取り上げられるとか、そういったものはあるか。

（事務局）

庁内検討委員会で、このような形で見せることに対して、特段意見は出なかった。

庁内検討委員会では、非日常と異日常の定義を入れてほしいということがまず1点。あと、異日常のところ、普段立川に住んでいる方、訪れている方が楽しんでいるようなものを観光にするなら、そこをはっきりと書いてほしいとあった。ビジョンのコピーそのものへの意見はなかった。方向性は良いのだろうが、より伝わる形で加筆してほしいとの意見だった。

長期総合基本計画の中では、各個別計画でこのようなビジョンを示している訳でなく、それに関してこういう形で示すことに対しても、特段良い悪いも含めて、否定的な意見もなかったと記憶している。ここでこういう形で載せることによって、長期総合基本計画の、今回更新する後期基本計画ですが、施策が30数本あるので、個々の個別計画でやることを後期基本計画に吸い上げて挙げるということにはならないかと。

また、I委員からは、現在の箇所については納得している旨、意見をもらった。

（会長）

では次の章に。

（事務局）

資料に基づき説明。

（会長）

この数字の部分はいかがか。要は、目標を、大幅か多少かわからないが、外してしまったことについての理由を書くということか。

（A委員）

入れたほうがよいかと。これでよいと思う。

（事務局）

I委員から意見があり、目標に63億円を掲げて実際達成していない点、また目標に61億円を出している点で、額の出し方の部分の根拠が希薄だろうということについてはまだ疑問があるが、現状どうしようもないと思うので、今後市としてきっちりと修正をかけてほしい、という内容。

（会長）

これは、要は中心市街地の来訪者が増えれば増えるし、下がれば下がる。

（事務局）

観光地と設定しているところが、観光消費額とその他来訪者と分けているところも金額に影響が出

ている。名古屋から持ってきているところもある。その辺は、ここ5年で立川スタイルをつくりあげ
ることを認識しているので、ここは真摯に受け止めて改善するしかない。

I委員からは、これでよいと電話をもらった。

(会長)

他にいかがか。ここは、本当は31年度末の数値と比較するべきか。

(事務局)

どうしても作るタイミングで。もしかしたら伸びていて、実際計画の中での数字としては達成する
ことも、もちろん考え得る。

(会長)

状況としてどうか。JRは多少伸びている。モノレールは南がちょっと落ちているが、それでも上
がってはいるという傾向で行くと、31年度末も中心市街地の来訪者数は増えているのか。

(事務局)

あとは車の状況。中心市街地に入る車の数自体は、ここ何年か影響しているのは、公共交通は伸び
ているが、車が中心市街地から分散化しているところが、この数字の伸びに関わってきている。

あくまでこの計画は、本来立川全体というところで、そこの数字も把握できて分散しているものも
含めて、一極だけでなく、より奥行きができていくことは当然悪いことではない。ただ、そこを把握
する術を持ち合わせていないので、言い訳のような書き方にならざるを得ない。そこをしっかりと問題
として取り組む認識はあるという書き方をしている。

その他来訪者はそこが影響するが、昭和記念公園の来園者数も観光客数に大きく影響している。あ
とは、公営競技は今年度グランプリあったので、何万と増えはしないだろうが、増えている可能性は
ある。昭和記念公園はどうか。

(C委員)

今年は厳しい。猪が2回出たこともあるが、台風がきつかった。7月の冷夏というか、寒さ、天候
の悪さも響いた。

ただ、天候を言い訳にはいけないかなど。実際、ひたち海浜公園は観光利用がしっかりとベー
スを作っていて、雨でもお客さんが来ていた。観光のツアーバスがくるような売りがあるわけだから、
そこを売りに出せばなど。

(事務局)

ひたち海浜公園は何が違うのか。

(C委員)

都市型と地方型の公園。しかも観光の売りとして、ひたち海浜公園はネモフィラやコキアがある。
立川も歴史があって日本庭園や銀杏並木があるが、観光という視点での売り出し方がまだ定着してい
ない。

あと、これはなかなか言いにくいですが、ひたち海浜公園は周りに漁港があったり、近隣の観光資源が
しっかりと整っている。立川でいくと、次に立ち寄る場所など、前後のプログラムの作り方が課題かな
と。

(会長)

ひたちの方は、旅行会社のツアーなどもあるのか。

(C委員)

一気にそうはならなかったが、少しずつ上がっていった。

もともと那珂湊という漁港があって、そこに市場があって、もともと定着していたというか、観光
スポットとして買い物できて、お魚が食べられてという場所。震災前までもかなりの集客があった。
震災後色々な影響があったが、逆にひたち公園の花がお客様をしっかりと支えて、ツアーが復活して、
魚と合わせたツアーが頻繁に行われるようになった。

あとは海水浴場があったり、偕楽園があったりして、そこのコラボツアー企画が盛んになってい
った。公園単体でなく、周りと連携して盛り上がっていったという実感。

(会長)

D委員、偕楽園と海浜公園って結構離れている。立川でいけば高尾山まで行ける距離。市を境にと

というのは抵抗があるのだろうか。

(D 委員)

どういう交通手段で来ているかもある。それぞれの周遊モデルというか、コースを提示していくのも有効かなと。もう少し市内で楽しめると。他のところは雨の日観光とか、そういったプログラムを提示している場所もある。過ごし方のコミュニケーションを少し拡充してくと、プラスアルファがあるかなと。

(会長)

広域の観光は戦略でもあるので、色々と意見をもらえれば。

(事務局)

I 委員から、20 ページ、ここはかなり強い意思を感じたが、資源として立川飛行場 100 年、記憶遺産というところと、引き込み線、栄緑地の辺りを、歴史的資源に組み込んでほしいという意見があった。この点については、いかがか。

(会長)

飛行機については、実際に観光資源にしようとしている人がいる。引き込み線というのは。

(事務局)

引き込み線は、もともと基地に物資や燃料を運ぶ引き込み線が、今は栄緑地という緑道になっていて、芋窪街道と合流するところにアーチがある。そこを歴史的なものとして語り継いでいくべきだという視点か。あそこはいい遊歩道にもなっているので、まちを散策することと、歴史を振り返って、改めて立川の歴史に触れる視点を観光という位置づけで見せられるかなという提案か。

実際、文化的なところに立飛の給水塔や倉庫群も既に入っているんで、今後何らかの種になるようなもの、具体的にどう動くかという戦略に入れるところまでは難しいかということだが、可能性のある資源として認識するというのは、特段否定する要素でもないかと思っているところ。

この立飛のところに、まとめて立川飛行場と引き込み線、あとは、立川飛行場（記憶遺産）ということを文化遺産のところにまとめる形でいいか。

(E 委員)

私も入れてほしいものがあって、自分がよく案内するのは、旧ヤマダ電機のところの踏切に「航空支庁」と名前が残っている。基地の名残が残っている。これを知っているかと聞くと、みなさん知らないと答えるので、得意になって伝えている。

(会長)

これも飛行場の記憶遺産の一環か。

(事務局)

後で具体的に教えてもらえれば。

(会長)

他にいかがか。数字のところは理解してもらって、あとは課題の部分か。目標値の設定のところだが、こういった書き方でいいか。ここは前回、色々指標を出してもらったと思うが、具体的にモデルとしているところはほかの自治体にあるか。

(事務局)

今後課題については、1 年ごとのモニタリングをする時に、目標値に影響がありそうなものをサンプリングして拾って、課題に対して関連性があるものを導き出したいとは思っている。対外的に目標としては掲げないが、取り組んでいることに対して参考となる指標としては、協議会の中でみなさまに進捗の協議をする上での数字として出していきたい。

ちなみに、6-6 と 7、図示のところの展開を作る際、順番を逆にしてはいる。

(会長)

では次の説明を。

(事務局)

資料に基づき説明。

(会長)

28 ページの課題から繋げること。具体的な戦略の内容。全体を通して何か意見はあるか。

(A 委員)

まず、戦略が大分すっきりした。資料を見たとき、うまく持ってきたなと感じた。それから MICE の位置づけも、立川の中で観光の一部という捉え方をしていくべきかな、というところもあるので、載せてもらってありがたい。よいと思う。自主財源もよいかと。

(事務局)

自主財源の書きぶりも、市としても我々行政でいくら工夫して財源を、とは言っても、内部でやっても、折角努力して生み出した財源が一般財源になり、観光に予算として充当されないといったこともあることから、そのあたりの表現も含めて、観光振興に活用可能な財源確保といった表現とした。

もちろん行政も取り組むけれども、そういった仕組みづくりを民間と連携して作っていかなければ、という意味で表現した。

(会長)

G 委員、他に財源確保で上手くいっている団体はあるか。

(G 委員)

都内の各観光協会の状況としては、みなさま苦戦している部分。ただ、比較的うまくいっているのは、色々な手法で財源確保している例として、駅前にある観光協会はバス会社と連携して定期券の発行業務などでの手数料収入を確保しているところもある。あと三鷹だったか、ジブリ美術館の市民向けチケットとかの手数料もばかにならない。昭島は、バス停の販売所を無くすのでその業務を請け負った、というところで自主財源の比率が増えたと聞いた。

みなさま色々工夫しながら、もちろん会員確保も大事だし、行政の助成をしっかりと確保することもあるし、ある程度多様なやり方をして確保していくことが必要かと。

(E 委員)

いくつかある。戦略1つ1つに、こういうのがあるのかなと思いついたのを最後に言いたい。

2-2、スタンプラリーが連携の取組内容にあるが、スタンプラリーもいいが、ダムカードみたいなカード集めも、面白く取り組んでいるところもあったりする。沖縄県のインフラカードみたいなものがあって、道の駅とか首里城とか、そういうのを巡って集める、スタンプラリー以外のものもあるのかなと。1つ、アイデアとして。

3-1、立川ブランドの創出の部分。舞台・ロケ地も、もちろん進めたほうがいいが、自分が立川の情報を集める中で、立川市にゆかりのある人が別の町のことを描いたものもある。ロケ地ではなくて、作者がゆかりのあるものでもあり。そういうのも集めてみると。作品を読んでいると、そういうときもある。そういうのを集めていくと、ブランドになったりしないかなと。

4-1、東京都観光情報センター多摩でガイドをしている方とこの前話をしたとき、観光スポットのガイドマップはあるが、近くのおいしいお店の情報は置いてなくて、そこをすごく聞かれると。そこが連携できるといいと。そこに来た人は、観光もだが、食の情報も求めている。センターとしてはあるけれど、足りていない情報を探るのもいいのかなと感じている。

シェアサイクルの件、自分は自転車好きなのでぜひ進めてほしい。立川は自転車を進めやすい環境にあると思う。競輪場があるし、昭和記念公園も1,000台クラスでレンタサイクルがある。たちかわ創造舎は、自転車の拠点として打ち出そうとしている。その辺りも文章に絡めて「だから、立川がやっぺいこう」とメッセージに出したほうが、「これまでもやっていたが、さらにやる」というメッセージ性になるのかなと。

(会長)

まず、スタンプラリーだけじゃなくて、もっと色々あるのでは、と。マンホールもあるか。

(事務局)

立川市も、ちょうど新しいカラーマンホールを整備して、東京都の補助を活用して、南口にある観光情報プラザの前に設置されたところ。この前も雨の中で写真を撮ったと聞いた。第1弾のマンホールカードは子ども未来センターで配布して、その時は簡単なアンケートをして、どこから来たか回答を聞いたところ、全国各地から取りに来ていたとリサーチがとれた。

エキュートの観光情報センターで、多摩地域でもマンホールカードを出しているところも色々あるので、色々なところを回ってみよう、みたいな人をうまく周遊させられるのではと、東京都の担当と

アイデアのやり取りをした経過はある。種としてはマニアックだが、わざわざそのために遠方から来てくれる、その人たちへの環境整備、情報発信は可能性のある取組かなと。

(E 委員)

そういうのが、自分は好き。

(会長)

飲食は東京観光財団のホームページにもページがあった。あれがいまいち充実していないところか。

(G 委員)

その通りで、確かにちょっと充実していないところ。相当情報はあると思う。

(事務局)

立川のお店を知りたいのか。

(E 委員)

観光情報としてお店を知りに来る人がいる。そのついでに観光地も、と。そこの期待値に応えられていないところもあると思う。

(事務局)

制約があって、立川だけの情報を置くのは難しいと聞いている。

(G 委員)

結構、割と置けるのかなと思っていたが。

(事務局)

厳しい。パンフレットのゾーンに飲食マップを置くのはいいが、カウンター横に大々的に置くのはちょっと。スペースというよりは、単一の自治体のことを目立たせるのがネックと。ロケの展示だと3市合同でやれたり、観光財団の補助使ったスキームの事業だと立川市単体でも置かせてもらえたり。なかなかどこまでいけるのか、今コミュニケーションを取っている。我々の方で少し工夫してみたい。

(G 委員)

なかなか個別のお店を紹介するのは難しい部分。

(事務局)

「質問されたら持っておいてください」というものはスタッフに渡せるのかなと。商店街が作ったものがあれば。たまった立川という、輝く個店というお店の表彰制度があり、選りすぐりのお店で推薦できるものがまとまっている。それなら1つの個別のお店でなく、市の情報として渡せる。そこは我々の方でもコミュニケーションをとってみる。

(E 委員)

わかる人がそこにいるだけでもいいのかなと。

(会長)

レストランは、超老舗とか、誰が見ても文句ないようなところは載せられるが、個別のお店で「美味しいよ」というのは「食べログを見てください」となる。

(事務局)

行政が作るにしても、商連が作るにしても、全てを載せる訳にもいかず、かといって特定のお店も難しい。それでたまった立川というのが、取組12年目で、輝く個店で毎年5店舗くらい立川市内の表彰店舗が増えていく。50数店舗ストックがあるので、そこについてはお墨付きとして胸を張って紹介できるが、商店街の方でも、本当にお節介なおばちゃんが1人いて、その人に「あそこいいよ、行ってごらんさい」とコミュニケーションをとれるのが本当が一番いいと思うが、なかなかその気の利いたところまでをやるには限界があるのが、正直なところ。

(副会長)

お店の紹介だと、ぐるなびとか食べログの世界で、何も関連性ないとか、そこに行くとも美味しい店の何かもらえるところであれば案内所に行くと思うが、単にお店を紹介するだけだと、そちらの方にどんどん時代は流れているのかな、という気がする。センターとして発信するものは何にするのか、というのが変わってくるのかなと。

(D 委員)

編集を入れていかないといけないかなと。

(副会長)

東京都が作っている計画で「バックキャストシンキング」、10年後にどんな世界になるのかを見据えて計画を練りましょう、と言われていていると思うが、そう考えると、時代が変わってくるので、計画の中に、例えば、交通ってというのは、自転車も大事だと思うが「多摩川の沿線でドローンタクシーを飛ばして、羽田・成田から直接観光客を呼んできましょう」とか。それが観光なのか都市計画なのかはわからないが、そういった発想も欲しいなと思う。

最後の各事業者の取組のところでも言いたい部分がある。そこにちょっとお願いしたいことがあるので。個別の部分は、私はこれですっきりしたのでいいのかなと。

(D 委員)

前回の会議からの続きの話だが、3-1の「新たな立川ブランドを創出する」の書きぶりで、最後のまとめはいいのかなと。方向性はいいかと。

ただ、冒頭の「観光振興の必要性」とか「立川が目指す将来像」というところに一旦戻ってみると、「観光振興の必要性」に対して人口減少問題が入っていて、5ページの「立川市の目指す将来像」のところでは「住みたいまち、訪れたいまち」という観光まちづくりの方向性を示すビジョンがある。その下に新たに加わっているのが異日常の話。今までの観光とはちょっと違う、異日常、立川市民にとっての日常や普段の暮らしが魅力的になって観光になる視点。人口減少問題や「訪れたい、住みたい」というような移住・定住の方向性も少し視野に入れると、発想としていいのかなと。そこを受ける視点が「新たなブランドの創出」のところに入ったほうがいいかなと。

例えば、最後の2行に「立川らしい先進的な視点で」とか「新たな視点で新たな魅力を加え」というような、今までの枠組みとは違う新しい視点、先進的な立川らしい視点で新しいものを作っていこうといった目線を入れていったほうがいいのかなと。そうすると最初の課題を受けていくのかなと。具体的なことはそれぞれが決めていくことだと思うが、今までの「既存の資源を探していこう」というよりは「もっと捉え直していこう」というような方向性の一文が入るといいのかなと。

(事務局)

せっかく将来像や方向性を整理しておきながら、そこに結び付けていっていないのはもったいないところなので、意見を踏まえる。

(E 委員)

今のところは、次ページの「立川らしい」というところとはちょっと違うものか。35ページで「立川らしい都市ブランドを構築」とある。

(D 委員)

今までの観光という概念とは、また少し違ったレイヤーで観光資源を探していこうというような。これは立川の都市イメージということで、また違うのかなと。

(事務局)

E委員からあった自転車の活用の視点については、実はこの観光振興計画と合わせて、自転車の個別計画を交通対策課がやっている。これまで立川というと、駅前の駐輪場対策や違法駐輪問題など、割と規制や管理の視点で計画を作ってきたが、一定程度そこが整理されつつある中で、今後は自転車をまちの移動手段、もしくは観光や余暇の楽しみなど、色々な形でプラスアルファの利用の方で、そちらの計画としても目玉を入れたいので、観光の計画でも入れられないかと。立川のまち自体、坂がなく平坦という特徴や、すでに自転車を保有して活用している状況も、おそらく都内の、坂の登り下りが多くて地下鉄が当たり前に通っているまちと比べると、自転車を生活の足と使っている人は非常に多いという現状があって、そちらの計画でも書いてある。観光の視点で何か連携できるようなというオーダーもあるので、そこは連携して書いていきたい。

(E 委員)

ぜひ進めたい。

(G 委員)

37ページのMICEということで加わった部分。MICEの運営組織として仮称「DMO立川」とあるが、設立の目途などは立っているのか。

(A 委員)

現在、何らかの組織団体を作るという方向性の中では動いていて、そこで仮称「DMO 立川」という言葉を当てはめているだけ。誤解を招くかなという感じがするか。

(G 委員)

逆に今回の目玉なのかなと感じた。

(A 委員)

認定を受けるかではなく、観光協会とは切り口が違うという表現をしたいがために、この DMO という言葉を使っている部分がある。ただ、これからずっとやっていく中においては、立川レベルからいくと、観光と大きく分かれる部分がないので、何らかの形で協働していく部分が強いのかなという私のイメージ。初めてまだ2年目なので。

(G 委員)

観光庁の日本版 DMO の考えもあるが、東京都としては「それでなければ DMO でない」ということでなく、広い意味合いで色々な関係機関と連携した観光振興ということの意味合いで「DMO」という発想、それに近い協議会を推進しているところ。

(A 委員)

墨田だけかと、日本版 DMO は。

(G 委員)

純粋な観光客に向けたもの、インバウンドだけのもの、MICE を中心にやるものももちろんあって、色々なやり方があると思う。先ほどのひたち国立公園の話の中で、立川が茨城の公園と同じようなツアー客を呼び込むようなことが中心なのかな、と聞いていて思っていて、立川は、私も感じたが、駅を降りただけでわくわくするような、都市観光という意味では条件がある都市なので、その中で立川市がどういうやり方がいいのかなと考え、1つ MICE も立川市ならではのかな、と感じたものだから。とはいえ、やっていくのは大変なので、時間はかけていただいて、しっかりその方向性を失わずに、というように感じた。

(E 委員)

前回出ていた自治大の件。自治大の人が全国に散っていくというところで、そこどうまく絡めるといい、という話は何かアップデートがあるか。

(事務局)

赤字にしていなかったが、38 ページの 4-3-(3) 市民全体での取組強化の中で追加した部分。ちょっと大きくは言いづらいな、というところで、かつ、あまり自治大も、行政が関わらず自由に交流しているからこそ楽しいのかな、というところもあり、観光の視点で「是非汗をかいてください」となると苦しくなっちゃうのかな、というのが自治大の方に対してあるのかなと。「お願いします」というスタンスは気を付けないといけないかなと。

(E 委員)

そうなのか。全国の行政のエリートが集まる自治大が MICE と絡むと、すごく立川らしさが出るかなと思った。

(事務局)

情報交換はしながら、今の関わりから、今と違う上のレイヤーに上がればいいのかというのは、その方たちと意見交換をしながら積み上げる必要があるかなと。

(F 委員)

全体的なところから。これは希望だが、28 ページの部分、すごくわかりやすくなっていて、いいと思っている。29 ページもわかりやすくなったので、見開きで繋がるように全部見せられれば。

(会長)

課題から施策までが繋がっていると。

(F 委員)

それをうまく具合に繋げると、もっと見やすくなるかなという個人的な希望。課題があって、戦略があって、こういう施策がある。2 ページ使ってもいいのかなと。

(事務局)

他のページに影響がないか。イメージが伝わるのは重要な視点だと思うので。目次、表紙をずらし

て、2ページ目がずれるような形だといったと思うが。

(F 委員)

細かいところで、スタンプラリーとシェアサイクル、両方に関わるかもしれないが、個人的には、立川を中心とした周遊パスみたいな、公共交通機関のフリーパスみたいなものを出すとかが、今モノレールがやっているが、そういうものを JR やバスでも使えるとか、うまい形でできないかなど。プラス、昭和記念公園が割引になるとか、立川のまんがパークの入館料が割引になるとか。都内で色々されていることが、まだこちらではできていないので、それがあるとわくわく感がでるかなど。広域もそうだが、立川を中心とした隣接地域内のフリーパスでもいいし、市内も両方でできればいいが、

(会長)

サンリオピューロランドがついているものがなかったか。

(事務局)

今の意見については、MaaS の実証実験に加えて、それを見越して盛り込んだ。2月に JR と立川バスとモノレールが MaaS アプリの社会実証実験をやるときに、多摩動物公園のチケットとモノレールのセットチケットがアプリ上で使えるよう実験が始まっている。

我々もそのアプリで出来ないかと考えたが、観光の利便性よりも交通の課題解決、バスから乗り換えしようとするが遅延してうまく乗り継げない、などが立川は多いと。そのアクセスの不便さ解消のためにやろうか、というところが始まり。我々の意見、観光に対してはおまけ的に多摩動物公園をやってみるくらいの感じで、関係者としては、今回はそれほどの肌感覚。やってみて展開が変わる可能性はあるので、それを見据えて計画に入れ込んでいる。やるぞと大きく言える状況ではないが、その動きをきちんと活かしていきたいという希望も込めて、あえて MaaS と入れている。

行政の思惑だけでは。民間事業者と一緒に取り組んでいく、立川を拠点にというのも、もともと小田急グループがやっているのが、小田急グループの立川バスがあって、「遅延があって、本来来ているはずなのにもう行ったのか、まだ来ていないのか、それがわからない」のが課題なので、立川がモデルケースとなった。F 委員の言う周遊、交通利便性を含めた移動しやすい環境を整えるのは、将来的な方向性としてはやっていきたいという思いはある。ただ、そこを前面に出すことが行政としては難しいということで、可能性を期待してここに残した。

(F 委員)

立川体験スタンプラリーはすでにあるものか。それを拡充するのか。

(事務局)

立川体験スタンプラリーは、秋 10 月ごろに公の施設、海上保安庁のオープンなど、そういった施設を面で見せて、そこを回って楽しみましょうというものをやっている。そういったものを拡充して、立川のイベントや施設を別のテーマで巡るような形でできないか、という視点で書いている。

(F 委員)

なかなか現実化していないものなので、難しいとは思いますが。

(事務局)

スタンプラリーが MaaS に代わる時代が来る可能性もあって、それが一緒になった形として実現している未来が 10 年後にはあるかもしれない。それはその通りだと思う。

(F 委員)

ちょっと言うと、私は立川の端っこに住んでいて、立川駅までバスで行くこともできるが片道 360 円かかる。立川バスの 1 日周遊切符が確か 700 円くらい。そんなに変わらない。そういうのがあれば、市民も使うことができるかもしれないし、特に端に住んでいる人はそういう恩恵を受けやすい。昭島駅にも JR で行くが、バスが 240 円、電車が 160、170 円くらいで結構いい値段。だから、個人的にはそういうのがあったらいいなと思った。

(会長)

定期を買うまでではないか。

(F 委員)

毎日行くまでではないが。車で行く方も多いと思うが、夜お酒を飲む方は車には乗れないし、そういうのがあったらいいなと。個人的な希望も入っている。

(会長)

お酒飲んで自転車を飲んじゃいけないのだろうが、自転車を乗り捨てた先で飲めるとか。

(F 委員)

結構高いですよ、この辺の交通費。モノレールもそうだが、全体的に都内は安いイメージがあつて。

(会長)

需要をバス会社が認識すれば、可能性はあるかもしれない。

(副会長)

絆カードとドッキングすると、例えば市内の飲食が安く利用できるとか、そういうマッチングはいいかも。

(F 委員)

市民の特権ではないが、立川在住・在勤・在学者のみが入れるプラチナカードみたいな。

(会長)

周遊券はどこで購入するのか。

(F 委員)

バスは運転手から買う。乗っている時に。IC カードでも対応できる。

(E 委員)

交通結節点なので、いろいろ乗れるとなると楽しいかなと。

(F 委員)

子どもも色々動くので。少し話はそれちゃったが。

(会長)

西砂は西武線のイメージで、立川よりは向こうに行ったほうがいいのか。

(F 委員)

都内なら、西武新宿まで 410 円。バスと 5, 60 円しか変わらない。距離を考えると、高いかなと。

(事務局)

バス事業者なので、難しい課題。

(F 委員)

東急グループがサブスクリプションで定額サービスを始めるとあった。どれだけ乗っても月いくら。お試しで始めたみたいだが。

(事務局)

誰かバス事業者に強いコネクションがあれば。

(D 委員)

立川に地域通貨はないか。健康ポイントとかボランティアポイントは。

(事務局)

地域通貨はないが、健康ポイントはある。賞品に交換できる。立川がハブになって放射線に伸びているバス路線の立川バス、西武バス、一部日野に行く京王バス、多摩モノレールがあつて JR。そういうところをうまくエリアで周遊できる、と。検討の余地はあるかもしれない。モノレールで京王線と繋がっている高幡不動駅とかもあるから。

(E 委員)

全部万遍なく回るようなラリーとか。子どもは色々乗れると嬉しいかも。

(会長)

今回の施策では、外国人旅行者への対応が弱いのかなと。その辺は F 委員が一番詳しいと思うが、何かいい方策は出来ないか。要は情報発信くらい、後ろの方にある。

(事務局)

40 ページにある部分。

(F 委員)

在住外国人も増えているので、多言語もキーワードになるが、英語だけではなく、私はできないがアジア系の言語も。どこに行ってもというのが最終目標だが、多言語表記の場所が増えれば、それが

対応の充実になるのかなど。訪日外国人もいいが、都内で働く人が昭和記念公園、立川に来ることもあると思う。そういうのは結局口コミの情報が多いので、行った人が良かったとなって都内からやってくる可能性が高いんじゃないかなど。それは SNS が重要なのかなど思うが。

(事務局)

昭和記念公園の紅葉、桜もそうだが、相当の数の外国人の方が来ている。アジア系の方も相当来ていて、その方が全て訪日で来ているとは思えない。昭和記念公園の中でゆったりした時間を過ごすとか、立派なカメラを持って光景を撮りたいというのは、外国人の行動でも相当数あるのかなど。確かに情報発信とか、魅力の伝え方のところに行きついちゃうのかなど。確かに弱いというか。

今年、おもてなしボランティアの育成ということで、昭和記念公園の中の日本庭園でお茶を出しているところに ALT、外国語を教えている先生に入っただき、外国人視点でどう映るか、立川のボランティアが伝えるにはどういう表現であればより伝わるか、そういうのを体験する講座と、実際シミュレーションを実施した。日本的なものが割と身近で楽しめるというのも、意外と知られていない昭和記念公園の魅力だったりするのかなど。それを伝えるためのおもてなしも強化しなければいけないのかな、という話が出ている。

(D 委員)

話がずれるかもしれないが、弘前の桜。GW に、多くの方は国内の方だが、外国人の方が、数というよりは、客単価 1 万～1 万 2 千円のお弁当付き花見ツアーに 100 名集まった。なぜ集まったのかというと、忍者が花見をガイドするという。何を、桜をガイドするというよりかは、誰がガイドするか、そこに新しいブランディングを入れたら、客単価も上がって、花見をおもてなしするというか、成功事例なのかなど。

(会長)

私もコスプレイヤーに秋葉原を案内してもらったことがある。

(事務局)

昭和記念公園では、日本庭園の茶室、小間ももちろん受けたが、盆栽園が ALT の方にスマッシュヒットしていた。名物おじさんの盆栽師がいて、その方が、忍者ではないが独特の雰囲気がある方で、外国人だということを気にせずに日本語でバリバリどうだと語る、それが結構面白かったと話していた。話す内容を紙で英語表記したものを渡して、その方がどや顔で喋るだけでも大分違う。今は日本語しかないが、紙があれば雰囲気を味わいながら英語で理解できる。それだけでも大分違うので、環境整備を少し変えるだけで伝わり方が違うよねと、モニターツアーで導き出している。そこを昭和記念公園にフィードバックして、来年度以降改善できないかどうか、少しずつブラッシュアップすべきという話はでている。そのおじさんの動画を撮って流しても面白いなど、色々なアイデアが出てきて、今年度発見があった。

(E 委員)

あにきゃんとかもあるから、コスプレイヤーが案内するのも面白いかもしれない。

(A 委員)

古典の森の香道体験で、お茶室を使った。海外向けにするなら、あそこでティーパーティとかできればと非常にいいと思うが、ちょっと距離が遠い。

(津崎)

移動が結構大変なのと、言語対応が課題だとも言っていた。

(会長)

臨時で裏をバーッと通しちゃえばいいのでは。

(A 委員)

やれば面白いかなど。あそこはユニークベニューになるが、いくつかハードルがある。

(G 委員)

観光情報のやり方として感じるのが、紙ベースはもうダメとつくづく感じていて、旅行商品の販売支援をやっているが、オンラインのものから売れていく。先ほど天候のこともあったが、販売が続かなかったので、急遽パンフレットを作って、色々台湾方面のものなどを置いたりしたが、紙を辿ってきたものは 1 つもなかった。台風が落ちてから伸びたが、すべてオンライン。もうそういう時代

なのだなと。外国人は特に。

あと、人を集めようとする、一か月前、一週間前の予約はダメ。街歩きということでツアーをやったが、スパンが短くて予約が入らなくて、直前に問い合わせがあった。タイミングとかも難しいかなと。せっかく外国語対応をして準備しても、そういう旅行者の目線に立った使いやすさは研究する必要があるかなと。

(会長)

急に思い立って、見つけて来るのか。

(G 委員)

その通り。私たちが海外行ったときにホテルに着いてから決めるとか、ある。その感覚はどこの国もあるのかなと思う。

(E 委員)

オンラインは何を見て来た人が多かったとかあるのか。

(G 委員)

民間よりは行政の情報を辿ることが割と多かった。GOTOKYO とか、信頼できる情報ということで辿ってくるのが多かった。

(事務局)

民泊のサイトが体験プログラムを始めている。今までは宿泊だったが、体験マッチングをやっている。そこはどうか。

(G 委員)

そこはわからない。あとはトリップアドバイザー。割と信頼性の高いものを見ている。行政としてもしっかり情報提供をしていくことは意味がある。

(副会長)

39 ページ、戦略5の「ささえる」。これは、これまでに書かれている内容をどう実現、支援するかの内容かと思う。育てる、稼ぐ仕組みづくりとあるが、これ以外にぜひ書き込んでほしいのが、行政の対応としては補助金での支援はもう厳しくなると思うので、市民協働を進める規制緩和、権限移譲の取組の文言が入らないかと。

また、立川は他でやっていることをアレンジするのをうまくやるのが得意な市、という評価が結構あって、他でやっていないものに取り組み、立川初の取組にチャレンジするというのをここに謳えないかなと。

例えば行政ではないが、東京電力は、電柱の地中化が進み、外に出ているボックスが無機質にポンと置いてあるのを、地方でアートのラッピングをして、歩いて楽しい街にしようとか、回遊性を作ろうとする取組をやっている。それは行政と一緒に、規制を外さないといけない企画にもなってくる。

個人的には補助金はもういらないので、権限委譲をしてほしいという立場だが、そういったものが入ってくるとありがたいなと。ぜひ検討を。

(事務局)

フレームを崩すのは難しいので、入れるとするなら5-3-(1)に、特に規制緩和、権限委譲のところでは稼げる仕組みを作ると言い回しになるのかなと、個人的には思う、

そのあたりの書きぶりで、今書いている観光協会と連携のところがフィルムコミッションは1つの例くらいの書きぶりでできると、そういった取組を市としてやっていくと。例としてフィルムコミッションだという見せ方だと、部署としては我々も考えは一致している。

長年、安心安全ということ、法律での規制をやり慣れていたところで、バランスがまだなかなか思い切った舵をとれない、ということもある。ただ言われるとおりの、立川のまちの、今年みなさまも新年会などで色々耳にしてきたと思いますが、立川のまちのハード部分での大きな開発が終息して、ソフトのまちづくりへの転換点だと、大きなターニングポイントだと市長も発言している。今度はまちの設えをソフト活用の視点でどう活かしていくかという中では、規制緩和や公的なスペースの活用、賑わいに繋げるというのは、本来はやっていくべき方向性としてはあろうかと思う。

こういう計画に何らかの位置づけをすることが突破口になればとも思う。書きぶりとしてどこまで

書けるかは、庁内の検討は必要だが。具体的にどんな権限移譲があるか。こういったのがあればいいというのがあれば、イメージを持ちながら記載できるのだが。

(副会長)

車道は難しいと思うが、歩道の民間利用をどう進めるかとか。予算も管理も全部民間でいいよと、ただそのための費用をねん出するために、公共空間での広告表示を許可してほしいとか、そういった部分。規制があるから、やりたいことできないのもあるのかなと。今だとそういったところかなと。

(会長)

道路空間、駐車場空間の有効活用について、今年になってかなり新聞に掲載されている。国土交通省の発表では、道路にテラスを作るなど、いろんな記事が頻繁に出ている。国としては進めろという方針が出ているのか。

(事務局)

出ている。

(会長)

立川市は頑なということか。

(事務局)

丁度国交省だったか、最近ウォークアブルなまちをつくるということで補助スキームを出していた。そういったところを、ハード部門と模索はしていきたい。

(副会長)

観光の部署の方は同意見だと思うが、管理関係だと目立つ書き方すると指摘されやすくなると思うので、書き方は検討してもらおうとしても、そういった部分は入れてもらえる。

(会長)

ちょっと書いてもらえればいいか。

(事務局)

2-1-1(2)で、規制緩和などを意識して、サンサンロードは何ができるかというのを盛り込んで具体的には書いている。全体的に駅周辺の歩道空間をどうするかまでは具体的には書いていないが、権限移譲と規制緩和のところは今後考えていかなければいけない内容だと。公園も含めて。

(副会長)

公園だと、所管を観光にしてイベントスペースにならないかなと。場所の問題は必ず起きると思うので、そうすると広く人の集まれる公園だったり、歩道空間のところになるのかなと。

(事務局)

2-1-1(3)も諏訪の森広場とあるが、ここだけ、二千平米の芝生のある場所を観光の視点で使ってほしいとなった。平成29年に観光が所管となったが、広場を作れば賑わう訳ではないと痛感している。規制緩和をすれば賑わいが生まれるのかどうか、ここは研究課題かなと。

ただ、我々が持っていることで、例えばこの前非公式でドラクエウォークをやったりして、意外と人が集まった。そこを公園緑地課が所管しているとOKが出ないので、我々が持っている意味は感じている。一方で、正式にコラボしてやるとしたときの怖さも感じていて、少しずつ研究したいと思っている。向いている方向は同じだと思っている。

ちなみに、先ほど途中退席されたC委員から、昭和記念公園が都市公園から観光公園という意識を持っていたが、計画の書きぶりには昭和記念公園を盛り上げることをあまり書いていなかったのが先ほど確認したところ、問題意識は持っているが国交省との関係があるので、あまり書かれると自信をもって「それでいい」とはなかなか言えないと。ただ、文章の中で「伸びしろはある」というのを追加するのは構わないと。シェアサイクルで昭和記念公園の設置が出てくるということについては、国営公園にポートを設けた前例がない。前例がないということはハードルが高いということ。それに対して国がどう考えるか。他の公園に広がることを国交省が思い描くので、本当にいいのか、かなり慎重になるだろう、という意見だった。参考までに。立川市や街場の確かな動きがあれば、後押しになるだろうと言っていた。その2点を確認した。

(会長)

大規模イベントの誘致も付け加えてもらったので、対象の1つにはなるかなと思う。

(B 委員)

シェアサイクルの部分で、結論からいうと、「シェアサイクル等」とか、シェアサイクルだけに拘らず、シェアライドという表記にするとか。私はバイクがすごく好きなので、自分で所有することに意識はあるのだが、子どもたちが「所有するよりは」と関わり方が変わってきたときに、例えばいろんな問題はあと思うが、電動スクーターとか電動キックボードとか、ウーバー以外にも色々出ていると思うが、シェアサイクルで限定するよりは、「など」とか「シェアライド」とかにしたほうが、回遊性というか、ハードが整ってきたときに足自体も工夫したほうが、周遊性も高まるかなと思った。

(会長)

ちなみに、私は今日ここにシェアカーで来た。会員になっていれば乗れる。

(事務局)

パークアベニューの中にもある。

(会長)

そういうのも観光に使うようになってくるかもしれない。いいところがあれば。

(B 委員)

副会長のバックキャストの関係で、乗り物というもののあり方、関わり方が変わってくると、ここだけに絞るのは勿体ないかなと。

(F 委員)

去年都内の友人と檜原村の払沢の滝を見に行ったが、立川で待ち合わせて、友達は立川でカーシェアを借りて、そこから檜原村まで往復で行った。それで立川まで一緒に戻ってきて解散。まさに理想的な、立川にお金を落とす流れかなと、カーシェアの話聞いて思った。都内では運転したくないが、多摩地域でドライブとなったときに、そういうハード面がしっかりしていれば利用者は増えるのかなと。

(副会長)

シェアライドの推進とかでもいいかなと。自転車などとかも。

(事務局)

実はシェアサイクルの民間のポートは立川の本当に手前、立川までの東側はかなりあるが、立川に入った途端にない、途切れちゃうのもあって、1つ突破口になりうるということで記載した。将来的な可能性とか先々のことを見据えて、ということであれば「書きぶりはあくまで研究します」といったところなので、MaaSの実験モデルになったように、そういったまちとして色々な可能性の受け皿にもなっていくし、それをまちの賑わいに繋げていく姿勢があると示す意味では、B委員の言ったような、広げる書きぶりの方がいいかもしれない。修正する。

(会長)

最後の計画の推進のところはいかがか、副会長。

(副会長)

先ほどの規制緩和のところ、新しいものにチャレンジするということは、各種役割の立川市のところに入れて欲しいと思っていたが、先ほどのところでもいいかなと。

(会長)

今までの第2次のところで、毎年チェックって入っていたか。来街者がこのくらいとか。

(事務局)

中心市街地の数字については、毎年拾って管理をしているが、それをもって施策とどう関連性があるって、どこがうまくいっていないかという分析は正直していない、できていないというのが実情だった。そこについては、今後協議会を、計画作って終わりではないと変えたのも、実際にプランをつくって物事が動いていく中での修正というか、具体的なアクションプラン的なものは時々出てくると思うので、その意見交換をするために協議会を実施していく。

(会長)

副会長の言う通り、4、5年後にはガラッと時代が変わってしまっている可能性もある。思いもよらなかったものが出ている可能性もある。

(G 委員)

観光としても 2030 年、40 年にどうするかというのは課題。先日も記者会議でテーマにされたが、サステナブルツーリズム、持続可能な観光。それをどう見据えていくか大分議論はされている。

サステナブルツーリズムというと環境のイメージがされやすいが、もちろん観光も含めてだが、持続していく観光の取り組み方を考えると、かなり広い。どうやって地域と連携して、限られた資源で続けていくためにどうするか。そのルールをどうシェアするか。

外国人は、まだオーバーツーリズムとも言えないが、外国人の方々に地域の価値を理解していただくルールとか、地域の市民生活と観光が両立するためにはどうするか、そういったものを整理するのが課題。

(E 委員)

立川市の役割のところで「情報発信が必要となります」とあるが、情報発信と情報収集と情報交換・交流はそれぞれやらなければいけないことが違うと思う。その中で、発信だけではなく、まちの情報をどう集めるか、とかも必要かなど。前に情報発信と書いてはあるが。

(会長)

いかがか。簡単にいけば、収集と交換と書いてしまうことだが。

(事務局)

言葉を増やすかどうか。もちろん発信するためには収集、交流が前提ともいえる。広報も広報・広聴とまず聴くことがあって発信する。含まれていると捉えてもいいのかなど。強調するかどうかの話。

(E 委員)

モニタリングをどうするか、か。

(事務局)

実際に来年度以降は、大学の先生や市政アドバイザーを使って、専門の方から知見をもらって考えを出したいと思っている。

(会長)

みなさまに数字見てもらったが、5 年後には観光客 100 万人増になっていないといけないということで、並大抵のことではないと思う。前にも聞いたが、GREEN SPRINGS は東京都の観光施設の指定施設に入るかもしれないか。競輪場みたいに。

(事務局)

東京都が指定するのではなく、立川市はどこを指定するかと聞いてきて、我々が決めている。だから、その問題。ここかなと決めればだが、数を公表してくれないと意味がない。

(会長)

なぜ RISURU ホールが入っていないのか。

(事務局)

入れようと思えばどこでも入れられるが、そもそも観光地と思っているかどうかもある。例えば、みのれ立川については、最初は対象施設に入れており、観光客を調査する人が来ていたが、施設側からは「観光施設だと思っていないので来られても困る」という意見もあった。南極・北極科学館も、自分たちは観光施設だと思っていないかもしれない。市としては来訪者が来る施設と認識していても、当事者がそう思っていないという問題もある。そういった意味では、我々の努力が必要な部分ではあるかもしれない。RISURU ホールについては対話をして観光施設として調整できるかもしれないし、市の関連施設なので数字も拾えているので問題ないと思うが、GREEN SPRINGS はそもそも数字を教えてもらえるのか、という大前提の問題がある。関係をどうするか。共有をしていきたいという考えはあるので、そういった関係を築きたい。

(会長)

そういう施設が入るかないかでガラッと変わる。

(事務局)

今の数字の収集の仕方が、指定するもので大きく変わってしまう。その収集方法が問題でもあるという認識もあり、どうするかを今後考えていきたい。